

佐倉市佐倉城跡

—千葉県立佐倉東高等学校部室建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

平成10年3月

千葉県教育庁管理部

財団法人 千葉県文化財センター

佐倉市佐倉城跡

—千葉県立佐倉東高等学校部室建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—



平成10年3月

千葉県教育庁管理部
財団法人 千葉県文化財センター

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第327集として、千葉県立佐倉東高等学校部室改築工事に伴って実施した佐倉市佐倉城跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、江戸時代の佐倉藩上級武家の屋敷跡の一部が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が、学術的資料として、また郷土史資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係諸機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月

財団法人千葉県文化財センター
理 事 長 中 村 好 成

凡　例

- 1 本書は県立佐倉東高等学校部室建設に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は千葉県教育委員会の指導のもと、千葉県教育庁施設課の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成9年4月3日から4月21日まで、整理作業は9年4月22日から4月30日まで、所長折原繁の指導のもと、副所長宮重行が担当した。
- 4 使用した地形図は国土地理院地形図1/50,000（佐倉）、佐倉市都市計画図1/10,000である。
- 5 採図の方位はすべて座標北である。
- 6 航空写真は京葉測量株式会社平成7年撮影のものを使用した。
- 7 陶磁器の鑑定では豊島区調査会鈴木裕子氏に教示を得た。
- 8 調査及び整理作業に際しては佐倉市教育委員会、佐倉市市史編纂室、県立佐倉東高等学校、国立歴史民俗博物館杉山晋作氏、藤尾慎一郎氏、瀬戸市埋蔵文化財センター藤澤良祐氏の協力を得た。記して謝意を表する。

目 次

序文

凡例

本文目次

| | |
|------------|----|
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 調査方法と経過 | 1 |
| 3 遺跡の立地と環境 | 1 |
| 4 調査区及び遺構 | 3 |
| 5 出土遺物 | 4 |
| 6 まとめ | 11 |

挿図目次

| | |
|--------------------------|----|
| 第1図 遺跡周辺地形図 | 1 |
| 第2図 調査区位置図 | 1 |
| 第3図 佐倉城跡古図 | 2 |
| 第4図 調査地点 | 2 |
| 第5図 調査区及び検出遺構 | 4 |
| 第6図 出土磁器 | 5 |
| 第7図 出土陶器(1) | 6 |
| 第8図 出土陶器(2) | 8 |
| 第9図 出土土器 | 9 |
| 第10図 出土石製品・瓦・土製品・金属製品・錢貨 | 10 |

図版目次

| |
|--------------------------|
| 図版1 佐倉城跡航空写真 |
| 図版2 調査区遠景・遺物出土状況・002号跡全景 |
| 図版3 出土磁器・陶器(1) |
| 図版4 出土陶器(2)・出土土器 |
| 図版5 出土石製品・土製品・瓦・金属製品・錢貨 |

表 目 次

| | |
|---------------------------|----|
| 表1 出土陶磁器・土器一覧表 | 12 |
| 表2 出土石製品・瓦・土製品・金属製品・錢貨一覧表 | 13 |
| 表3 出土土器類比率グラフ | 14 |
| 表4 出土土器類別比率グラフ | 14 |

1 調査に至る経緯

県立佐倉東高等学校木造部室の老朽化に伴い、かねてから建て替えの要望が各方面からなされていたところであるが、平成7年、創立90周年を期に体育館脇の部室兼体育倉庫の隣接地に、新たに部室を建設する話が具体化した。対象地は佐倉城内域であり、遺構の存在する可能性があったので、事前に県教育庁生涯教育部文化課で試掘調査を行ったところ、遺物及び焼土遺構が認められた。そこで取り扱いについて検討されたが、緊急性が高く、計画の中止及び建設地の変更は不可能であったので、事前の発掘調査を行い記録保存する運びとなり、当センターが県教育庁管理部施設課の委託を受け調査を実施した。

2 調査方法と経過（第2・5図）

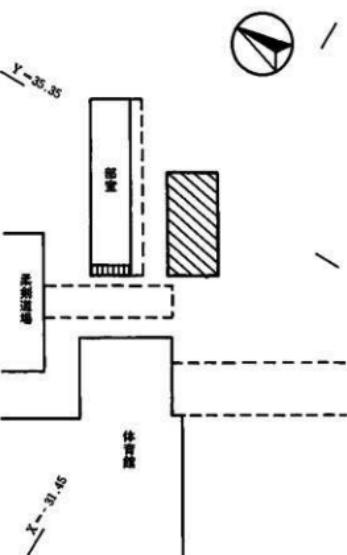
調査区は部室用地、短辺5m、長辺10m、面積にして50m²である。遺構の検出面まで盛土が2m近く堆積していたため、周辺を一回り広く掘り、段を付けて更に掘り下げる階段掘りの方法を採用した。盛土までは基本的に重機を用い土を除去し、以下を人力で掘り下げた。対象地を東西セクションを境に南側を1T区、北側を2T区と区切り、1T区をさらに東側を01、西側を02に2分割した。遺物は遺構に伴うもの及び完形に近いものを除き、各区で層位ごとに一括で取り上げた。

3 遺跡の立地と環境（第1・3・4図、図版1）

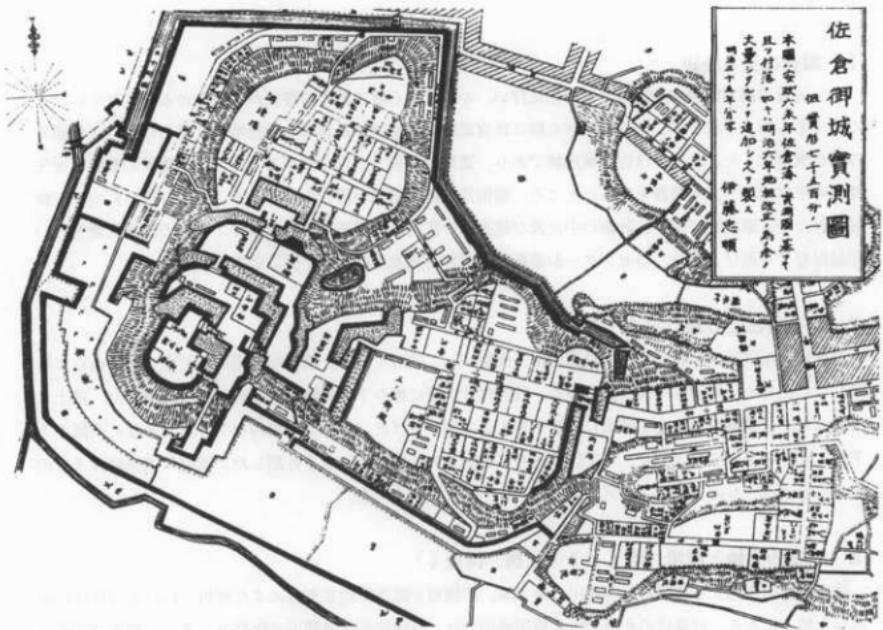
佐倉城跡の所在する地域は、鹿島川の最下流、印旛沼を臨み両側を支谷により解析された馬の背状に細長い台地上にある。対象地の北側の中学校用地内では、財団法人印旛都市文化財センターの調査で平安時



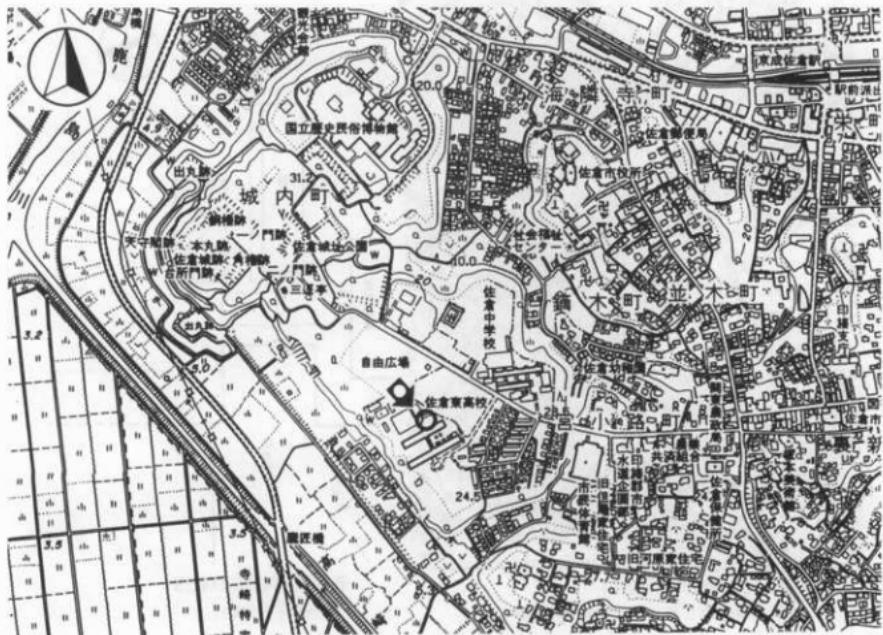
第1図 遺跡周辺地形図
(国土地理院5万分の1地形図「佐倉」より)



第2図 調査区位置図
(S=1/1,500)



第3図 佐倉城跡古図（佐倉史談より S=約1/10,000）



第4図 調査地点（佐倉市都市計画図 1/10,000より）

代の遺構が検出されている。今回の調査では古墳時代後期の土師器・須恵器が出土しており、古墳あるいは古墳時代の集落が存在した可能性がある。城館としての利用が開始されたのは中世以降であり、千葉氏一族の出城の鹿島城として出発した。天正末期には一旦本格築城が試みられたが中止されている。家康の関東入部以降は、当初千葉氏の居城だった酒々井の本佐倉城に家臣が配されていましたが、土井利勝の代になると家康の命により本格的に築城され、元和3年にはほぼ完成した。以降は代々明治4年廃藩置県になるまで譜代の大名が封された。佐倉が城下町として本格的な発展をみたのは後期堀田氏になり、転封がなくなってからである。

調査区の周辺は江戸時代の古地図によると、上級家臣団の屋敷地にあたる。高校敷地西側の現在自由広場となっている個所には、文政年間に三の丸御殿が建てられた。台地を東西に縦断して宮小路から追手門を通り、本丸へ通じる広小路通りがあり、その両側に屋敷が建っていた。調査地は三の丸御殿手前の十字路からさらに小路で東西に分かれる付近で、広小路町と下町との境近くにあたる。

佐倉城は、軍制改革に伴い明治6年には主に近辺を防備する第一軍管東京鎮台の歩兵第2連隊の駐屯地となる。それまでいた佐倉藩の家臣は移転し、椎木町は兵舎に、三の丸御殿・広小路町周辺は練兵場として造成された。そして第二次大戦後、北半側は佐倉市立佐倉中学校と植物園に、東南側は県立佐倉東高等学校の敷地となった。また、西半部は自由広場としてほぼそのままで残されている。

4 調査区及び遺構

調査区（第5図、図版2）

調査対象面積は、幅5m、長さ10m、面積50m²の範囲である。しかし建物が近接し、かつ電線が埋設されており、それらを避けて調査したため、実際に地山まで調査ができたのは5割程度である。検出遺構は明治初年の面で井戸跡1基、旧表土上部で焼土跡4基、下部で土坑が3基、柱跡2基である。

江戸時代の面の下は黒色土であり、古墳時代土師器・須恵器が出土したが、遺構は検出されなかった。下層は井戸の調査と兼ねて1m×2mを掘り下げたが、遺物が出土しなかったため本調査を行わなかった。

遺構

001号跡（第5図）

西端部で調査区の壁にかかって3分の1が検出された土坑である。径1.7m程度の円形のプランになろうか。近世表土の中位から掘込まれており、深さが0.7mほどある。床面近くから陶磁器の茶碗類が出土しているが、19世紀の瀬戸産もあれば、18世紀の伊万里、唐津碗もあり混在状態である。大型巻貝の貝殻や瓦の出土もあり、ゴミ穴の類と思われる。

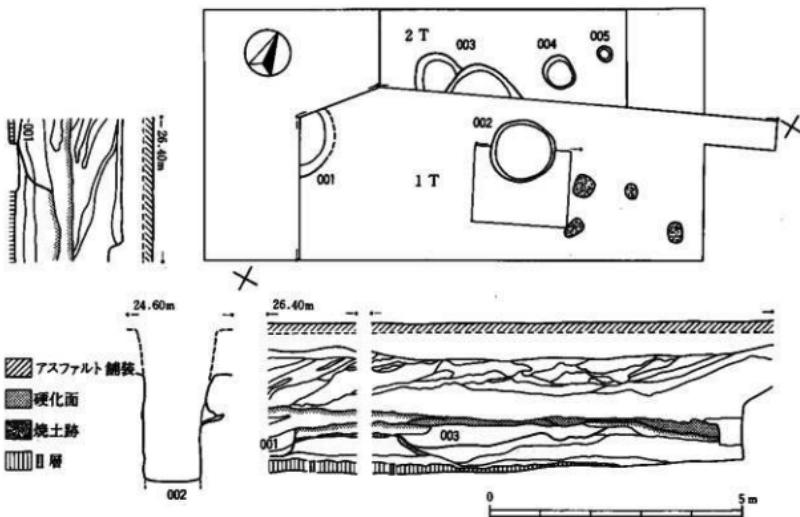
002号跡（第5図、図版2）

調査区中央で盛土下に検出された井戸跡である。盛土下では平面的に確認していないが、南側グリッド壁のセクションから見ると、溝状の落込みがみられるので、井戸からのびる溝があった可能性がある。

検出面での直径は1.4m、II層上面で1.2mで、そこから垂直に落ちている。深さ3m以上は調査不能であった。覆土は盛土と同じ土で、多量の瓦、陶磁器、礫類が投げ込まれた状態で出土した。

003号跡（第5図、図版2）

調査区中央部にセクションにかかって検出された土坑で、サブトレンチがあつたため、半分のみが確認



第5図 調査区及び検出遺構

された。長さ1.2mで幅や形は不明で、深さ0.2mほどである。陶磁器類の碎片が出土した。性格は不明である。

004・005号跡（第5図）

硬化した覆土をもつ円形の小土坑で、004号跡は径0.7m、深さ0.15m、005号跡は径0.3m、深さ0.1mである。柱等の施設の土台跡であろう。

その他

明治初期の表土面を始めとして、範囲は確認できなかったものの複数の硬化面が認められた。硬化面は中央部のセクションでも明瞭にとらえられた。また焼土跡が4個所ほど旧表土中で検出された。

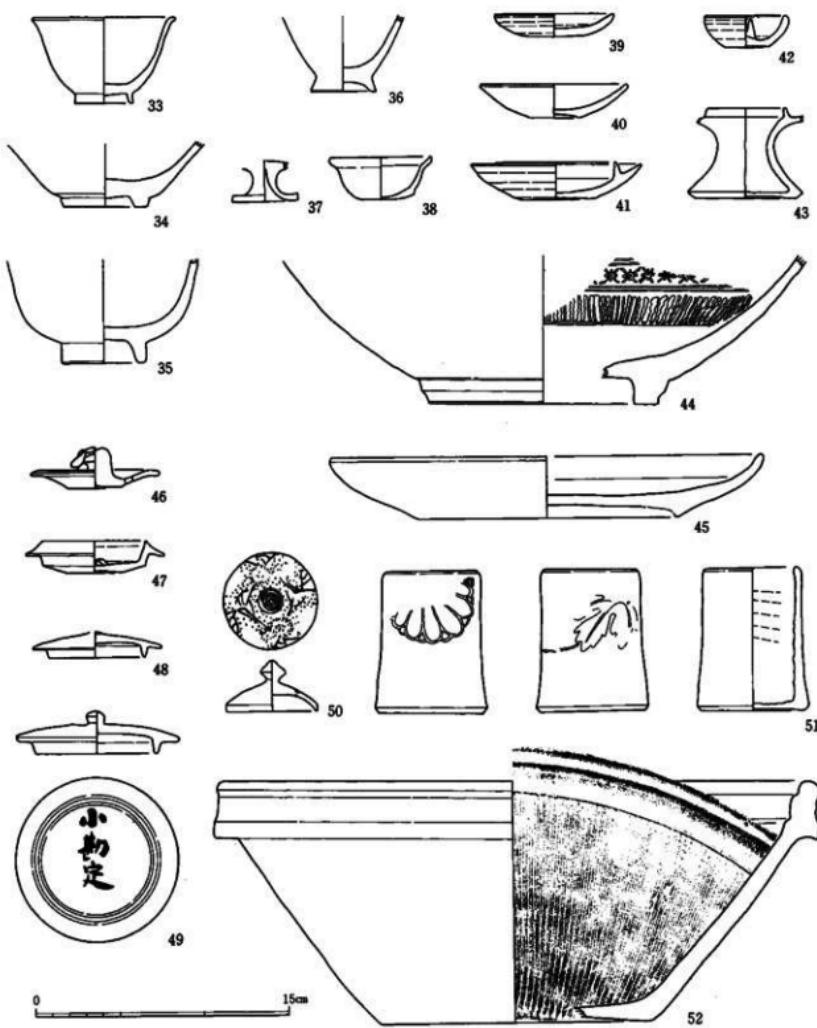
5 出土遺物

a 磁器（第6図、図版3、表1）

1～7は肥前産の飯茶碗である。7は大振りで鉢ともいえるものである。8～13は端反りの飯茶碗で19世紀瀬戸産である。14～20は湯呑み茶碗である。14は見込みに松に亀の色絵が施されている。20は筒形碗である。21～22は無文の端反り茶碗である。23は端反り茶碗で青磁がかった色調で五星文が押圧されている。24～27は茶碗の蓋である。24は広東風の直線的な口縁で、書斎の様子文様が描かれている。25～27が端反りになる。28は六角鉢で焼き難ぎ痕がある。29～32は皿である。29は青磁の小皿、30は青磁の菊花皿でひび割れが激しい。焼難ぎ痕を持ち、裏面に焼難ぎマークがある。31は折縁皿で、32は蓮花皿である。



第6図 出土磁器



第7図 出土陶器（1）

b 陶器（第7・8図、図版3・4、表1）

33は京焼系の小形茶碗である。34・35は肥前系で天目茶碗、35は同じく湯呑み茶碗である。36は卵立形の小碗であり、相馬産かとみられる。39・41は美濃産の鉄釉の施された灯明皿で、41は受け付きである。40は信楽系の灯明皿と思われる。42・43は乗舟で42は「タンコロ」形、43は容器付きのものである。38は鉄釉のミニチュア鉢である。44は三島手の鉢である。45は鉄釉・灰釉の皿である。

46～49は土瓶の蓋である。46では紐が獅子をかたどっている。48・49は美濃産の櫛齒文のもので、49では内面に「小勘定」の墨書きがある。50は色絵の施された急須の蓋で、空気抜きの穴は貫通していない。51は京焼系の筒形灰吹きでほぼ完形である。52は堺産の焼締め摺鉢である。

53～59は大形の鉢である。53・54は瓶掛型の火鉢である。55～57は手水鉢である。53・57は底面に穿孔され、植木鉢に転用されている。58は植木鉢である。59は浮文を持つ鉢で植木鉢とみられる。

c カワラケ・土器（第9図、図版4、表1）

60はススが付着し灯明皿として用いられたカワラケである。61は精製の皿で、内外面ともよく器面が平滑化され、底部内外面に三ツ星の黒斑がある。62は焼塩壺の蓋である。63は瓦質の円筒形火鉢で外面に型押文があり、一部帶状に磨かれている。64は大形でタガを持つ火鉢で、型押文が施されている。胎土は砂質であり焼成が良くない。65は浅い内耳土鍋で、残った破片から推定して中央部は平らな底になるとみられる。66はカマドの掛け口にのせる台である。67は七輪である。68は皿形で穴があいており、七輪の部品で「さな」とよばれるものある。69は器台形をした火鉢の五徳で、内面上部に切欠きがみられる。七輪の部品では、他に風口部の破片が出土している。

d 石製品（第10図、図版5、表2）

70～75は砥石である。70・75は板状、他は柱状を呈している。76・77は砂岩製の鋤型である。76は投網の鍾のものである。77は破片で砥石に転用されている。78は片岩製の小形硯でほぼ完形である。81は切断されたメノウ質の石刃片の周囲を打欠いて正方形に成形したものである。使用のためか一側縁の中央部が刃溝しされており、ガンプリントと思われる。82は黒基石である。

e 瓦（第10図、図版5、表2）

多量の本瓦の破片が出土した。79・80は巴文を持つ軒丸瓦である。

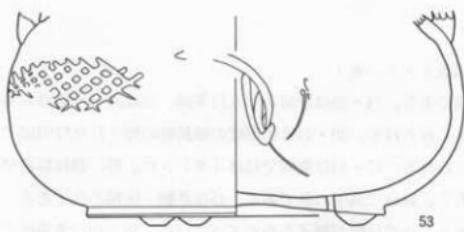
f 土製品・人形（第10図、図版5）

83は今戸人形である。84は猿が組み合った人形で、土師質で釉がかかっている。この他、型押しの人形の破片が若干出土している。

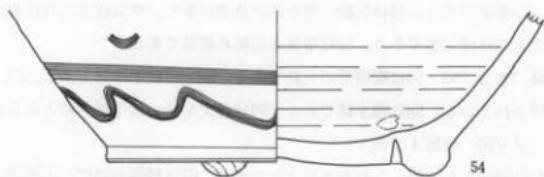
g 金属製品・錢貨（第10図、図版5、表2）

85は銅製の刀装具で、日本刀の柄の根本につく切羽である。86小柄の柄部分、87は銅製の火箸で両者には表面に文様の痕跡がある。88・89はキセルの雁首、90・91は吸口である。そのほか図示していないが建物の飾り金具類、鉄釘、包丁、鍋等の破片が出土している。

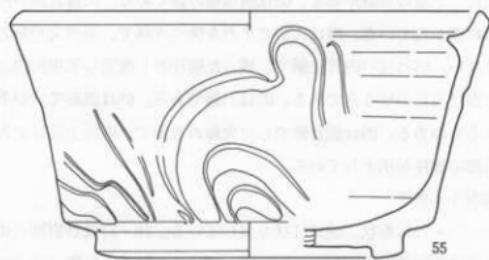
錢貨では一分銀、文久永寶のほか、判読不明の2枚が出土した。93の文久永寶は行書体のものである。92の一分銀には表に「一分銭」、裏に「王(定か)常八銭座」の文字がみられる。



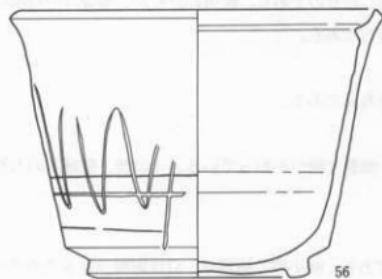
53



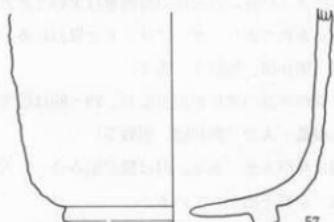
54



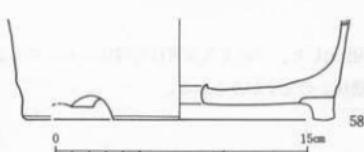
55



56



57

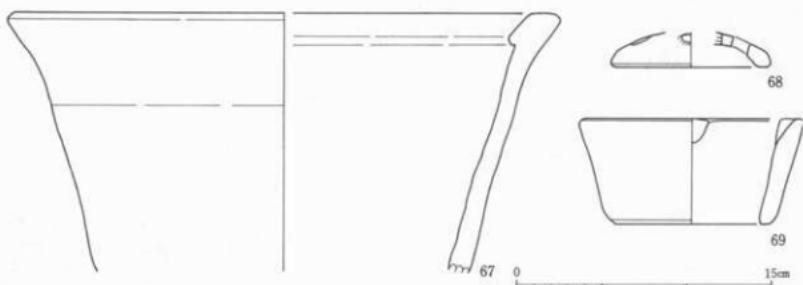
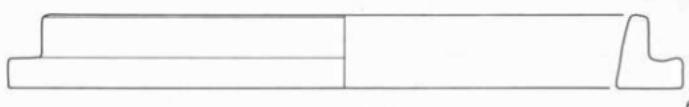
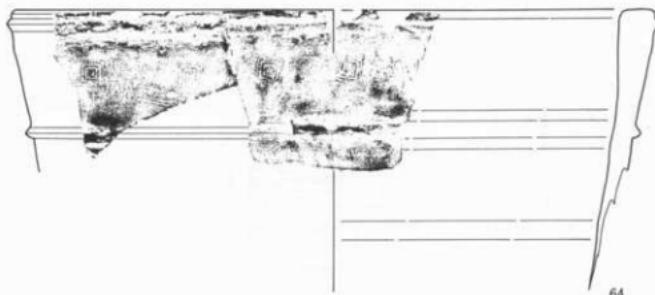
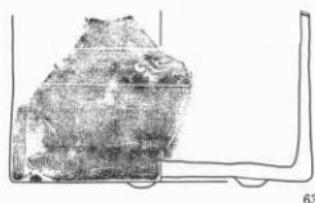
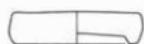
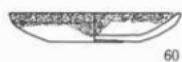


0 15cm



59

第8図 出土陶器（2）



第9図 出土土器



第10図 出土石製品・瓦・土製品・金属製品・錢貨

6 まとめ

調査前の対象地はアスファルト舗装の駐車場であった。北側にはグランドがあり、造成時に削平を受け、調査区の南部にはその折りの盛土層が観察された。その層の下から江戸時代の層までは、東側で1.2mの盛土があった。この盛土は江戸時代の遺物に加え、ロームのブロックを多量に含む層であった。同様の土は井戸跡内まで入り込んでおり、盛土の形成と同時にこの井戸が埋められたと判断される。盛土出土遺物中にはガラス製品が寡少であり、コバルトの染付けも皆無なので、明治初めにおこなわれた練兵場造成時の堆積と判断できる。井戸内の堆積状況からも一気に埋め戻されたことがうかがえる。江戸時代の層は最上面が現地表から1.6mで、ほぼ平坦に整地されていた。出土した遺物は上層のものと同様で、造成が周辺の地域を削ってなされたことが想定できる。旧表土中に硬化面が何層かあったが、これは度々整地が行われていたことを示すものであろう。

出土した遺物は江戸時代後半の遺物が主で約1,200点であった。ごく限られた面積の調査である上、出土遺物は半数は練兵場造成時の盛土からの出土であって、必ずしも屋敷地の営まれた時期や性格を反映しているとはいえない。ただ結果としては、盛土中と旧表土中の遺物に大きな差はなかった。

近世土器類の出土比率は表3・4のとおりである。土器類では碗類に染付けの磁器の比率(76.2%)が高く、かつ胎土の白い高級なものが多かった。前年度調査された佐倉町屋の弥勒東台跡（第1図）での組成とは異なっていた。弥勒東台跡は厳密にいえば寺院跡であり、陶器の比率が割合高く(44.0%)、染付けも色のくすんだものが目立っていた。今回の結果は調査地が上級武士の屋敷地という性格を示すものであろう。またカワラケ・灯明具・皿類の出土が少ない点では共通していた。北側の中学校でのカワラケの多さとは、大きく異なる。また陶器の大形の鉢類、火鉢や水鉢が目に付く(31.9%)。なかには穴が開けられ、植木鉢として転用されたものもみうけられた。それらを考え合わせると今回の調査地は居住区域というより、庭としての色彩が濃い場所であったといえよう。

また「小勘定」の墨書をもつ土瓶の蓋が出土している。「小勘定」は佐倉藩の職制の内にあるが、小役人である。なぜこのような墨書が上級武家屋敷地で出土したのかも興味を引くところである。

特殊な遺物としてはガンフリントと思われる石器が出土していることがあげられる。フリントロック式の銃器は17世紀に考案され、1700年頃には主流になったもので、つい最近でもアフリカのザンビアではガンフリントが製作されていたという。日本では鎖国をしていたためフリントロック式の銃器は普及の機会を失っている。歴代藩主のなかで堀田正睦は天保の藩政改革を行い、文武を奨励し成徳書院をつくるなど、開明的であった。西欧兵学の研究も熱心であり、成徳書院の演舞場に兵学所を設けて研究を行い、近代的な銃器を採用している。従って何らかの理由で、例えば研究の一環として、フリントロック式銃器を持ち込まれていた可能性も考えられる。

佐倉市内はもとより県内の近世市街地遺跡の調査はまだ緒についたところである。従来、城内だけが注目されていたが、比較資料を得るためにも町屋の調査例が増加することが望まれる。

表1 出土陶磁器・土器一覧表

| 番号 | 通撰 | 遺物番号 | 種別 | 基盤 | 生産地 | 年代 | 口径 | 底高 | 底性 | 胎土 | 既存度 | 特徴 |
|----|------------------------|-----------|----|----|-------|------|-----------|------|------|------|----------------------------|---|
| 6 | 1 T-1 | 1,2 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | 肥前 | 18C前 | 9.0 | 4.7 | 3.3 | 灰白色 | 1/2 磁白質、模印文・見込みに毫文(同面判) |
| 2 | 2 T- | 2 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | | 9.3 | 4.5 | 3.2 | 灰白色 | 2/3 磁白質、毫文(同面判) |
| 3 | 不明 | 不明 | 磁器 | 碗 | 肥前 | 18C後 | | | 3.8 | 灰灰白色 | 鏡片、模印文・見込み・台面にも毫文 | |
| 4 | 2 T- | 2 | 磁器 | 碗 | 肥前 | 18C後 | | | 4.3 | 白色 | 1/4 毫文大、鉄刷目 | |
| 5 | 1 T-01 | 2 | 磁器 | 碗 | 中鉢 | 肥前 | 18C末～19C初 | 10.0 | 5.5 | 3.4 | 白色 | 1/2 磁白質、模印文 |
| 6 | 001 | 1,2,3,4,5 | 磁器 | 碗 | 中鉢 | 肥前 | 17C末～18C初 | 10.6 | 6.2 | 4.6 | 白色 | 2/3 模印文 |
| 7 | 1 T-02 | 1,3 | 磁器 | 碗 | 大鉢 | 肥前 | 18C後 | 15.4 | 7.8 | 6.4 | 白色 | 1/2 花文、口縁内側、見込みにも毫文 |
| 8 | 1 T-01 | 3 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 8.5 | 4.3 | 3.3 | 白色 | 1/2 内外全面毫文、模印文 |
| 9 | 一括 | 1 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 8.6 | 4.9 | 3.4 | 白色 | 4/5 毫文・模印、見込み「壽」字 |
| 10 | 1 T-01 | 3,4 | 磁器 | 碗 | 中鉢 | | 19C | 9.2 | 5.2 | 3.7 | 白色 | 2/3 花・模印、見込みも毫文 |
| 11 | 1 T-01 | 8 | 磁器 | 碗 | 中鉢 | | 19C | 9.6 | 4.8 | 3.9 | 白色 | 1/3 花・草文、見込みに毫文 |
| 12 | 1 T-01 | 6 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 8.4 | 4.0 | 3.4 | 白色 | 完形、大面文、見込みにも毫文 |
| 13 | 2 T- | 2 | 磁器 | 碗 | 中鉢 | | 19C | 9.8 | 5.0 | 3.8 | 白色 | 1/2 花文、萬葉字、見込みに「壽」字 |
| 14 | 2 T- | 3 | 磁器 | 碗 | 中鉢・深鉢 | | 19C | 6.1 | 2.7 | 2.5 | 白色 | 3/4 鉄刷文側面付 |
| 15 | 1 T-01 | 3 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | 肥前 | 18C? | 6.4 | 3.0 | 2.7 | 灰灰白色 | 2/5 花文、模印文、紅口の可能性も |
| 16 | 1 T-01,2T | 3 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 6.2 | 4.6 | 3.1 | 白色 | 1/2 磁白質、底面付 |
| 17 | 一括 | 1 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 5.6 | 4.7 | 3.3 | 白色 | 完形、鉄刷目、反対面に墨文 |
| 18 | 2 T- | 2 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | 肥前 | 19C前 | 7.0 | 5.2 | 3.4 | 灰白色 | 1/2 磁白質 |
| 19 | 1 T-01 | 9 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 7.4 | 6.0 | 5.9 | 白色 | 2/3 木文 |
| 20 | 1 T-01 | 10 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 7 | | 4.2 | 白色 | 2/5 模印系鉄刷、網目目、見込みに御剣柄の文様 |
| 21 | 一括 | 1 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | 肥前 | 17C末～18C初 | 6.2 | | | 灰白色 | 鏡片、発達なし |
| 22 | 1 T-02 | 3 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | 肥前 | 17C末～18C初 | 3.8 | | | 白 | 鏡片、発達なし |
| 23 | 2 T- | 2 | 磁器 | 碗 | 小鉢 | | 19C | 7.6 | 4.1 | 3.4 | 灰灰白色 | 1/2 花文、模印文、底面かかった脚、動付なし |
| 24 | 1 T-01 | 7 | 磁器 | 直鉢 | 直鉢 | 肥前 | 18C? | 8.4 | 2.8 | 4.1 | 白色 | ほぼ完形?の子の文様本、直立、底付、側立付、墨等)、水の波文、見込みに毫文 |
| 25 | 一括 | 2 | 磁器 | 直鉢 | 直鉢 | | 19C | 9.6 | 2.5 | 3.8 | 白色 | 2/5 木の葉文、原草文、見込みに毫文 |
| 26 | 一括 | 2 | 磁器 | 直鉢 | 直鉢 | | 19C | 9.2 | 2.8 | 3.5 | 白色 | ほぼ完形?の葉文?、内面に比照を併せた動付・見込みにも毫文 |
| 27 | 一括 | 1 | 磁器 | 直鉢 | 直鉢 | | 19C | 9.2 | 3.8 | 2.7 | 白色 | 3/4 三分割直鉢に輪竹・竹・梅文様、縦縫に文字文、見込みにも毫文 |
| 28 | 2 T- | 2 | 磁器 | 鉢 | 中鉢 | 肥前 | 18C末～19C初 | 19.0 | 8.4 | 7.8 | 白色 | 1/5 大鉢、他鉢類、外腹木の葉文様、内腹は画面を区切り、底7と花7と墨7の葉文様、見込みにも毫文 |
| 29 | 001 | 8 | 磁器 | 鉢 | 小鉢 | 肥前 | 17C末～18C初 | 9.6 | 7.3 | 5.6 | 白色 | 1/2 青花菊 |
| 30 | 一括 | 2 | 磁器 | 鉢 | 小鉢 | 肥前 | 19C | | | 9.2 | 白色 | 2/3 青花菊文組、番面ひび、鉄刷、底蓋に「ヤ」の施マーク |
| 31 | 1 T-01 | 3 | 磁器 | 直鉢 | 小鉢 | 肥前 | 18C前 | 10.0 | 2.3 | 5.5 | 白色 | ほぼ完形?、鉄刷、模印、見込みに風景文 |
| 32 | 2 T- | 2 | 磁器 | 直鉢 | 五寸鉢 | 肥前 | 17C前 | 13.9 | 3.3 | 5.8 | 白色 | 2/3 菊花文、見込みに草花文 |
| 7 | 33,002,2T | 1,2 | 陶器 | 直鉢 | 小鉢 | 京焼系 | 18C後 | 8.5 | 3.1 | 3.5 | 明灰褐色 | 2/3 菊花文、外腹横筋、内腹灰褐色 |
| 34 | 2 T- | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 京焼系 | 17C前 | | | 5.0 | 暗灰褐色 | 1/3 外腹横筋、黑色 |
| 35 | 一括 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 中鉢 | 唐津 | 17C前～18C後 | | | 4.8 | 明灰褐色 | 2/3 青花菊 |
| 36 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 小鉢 | 相馬 | | | | 3.8 | 灰褐色 | 1/3 透明 |
| 37 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 肥前 | 19C | | | 4.0 | 明灰褐色 | 1/2 台部、透明物 |
| 38 | 2 T- | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 京焼系 | 6.2 | 3.5 | 2.4 | 暗褐色 | 1/3 ミニチュア、鉄袖 | |
| 39 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 京焼系 | 18C後 | 7.1 | 4.4 | 3.3 | 明灰褐色 | 2/3 青花菊文組、番面ひび、鉄刷、底蓋に「ヤ」の施マーク |
| 40 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 京焼系 | 8.8 | 2.0 | 3.0 | 明灰褐色 | 1/2 行灯具、透明物、スズ付管 | |
| 41 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 行灯受 | 美濃 | 19.1 | 2.2 | 4.6 | 明灰褐色 | 1/3 行灯具 | |
| 42 | 1 T-01 | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 在地 | 19C前 | 5.0 | 1.9 | 2.5 | 褐色 | 完形、行灯具、ランコロ、スズ付管 |
| 43 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 伊賀 | | | | 5.6 | 明灰褐色 | 3/4 行灯具、透明物、切り欠きあり、スズ付管 |
| 44 | 1 T-01,2T | 3 | 陶器 | 直鉢 | 火鉢 | 道連 | | | | 13.7 | 褐色 | 鏡片、三辺手 |
| 45 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 中鉢 | 中鉢 | 17C後 | 25.6 | 3.7 | 15.4 | 暗褐色 | 1/4 鋼鋸割分け |
| 46 | 1 T-01 | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | | | 7.6 | 2.4 | 3.9 | 褐色 | 完形、下地白色物、縫付け有る、絆縫が断子を取る |
| 47 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 土蔵系 | 8.2 | 1.9 | 3.2 | 褐色 | 3/4 透物 | |
| 48 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 土蔵系 | 19C前 | 7.7 | | 5.7 | 乳褐色 | ほぼ完形?、鉄刷物、模印文、紙袋、「丸善」印 |
| 49 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 土蔵系 | 19C前 | 9.7 | 2.5 | 7.4 | 乳褐色 | 完形、鉄刷物、模印文、紙袋、「丸善」印 |
| 50 | 1 T-01 | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 不明 | | 5.4 | | 3.0 | 暗褐色 | 完形、下地白色。木の葉文付 |
| 51 | 1 T-01 | 3 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 入れん | 18C後～19C前 | 9.4 | 8.4 | 6.3 | 明灰褐色 | ほぼ完形?、鉄刷、壺、在文付 |
| 52 | 002 | 1,2 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 那須 | 18C後～19C | 36.2 | 14.4 | 36.0 | 褐色 | 2/3 透明 |
| 53 | 002 | 1,2 | 陶器 | 直鉢 | 火鉢 | 那須 | 18C後～19C前 | | | 18.0 | 乳褐色 | 1/3 ハリ風呂、脚物窓付手平付、舟彫、模印用 |
| 54 | 一括 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 火鉢 | 那須 | 18C後～19C前 | | | 20.4 | 乳褐色 | 1/4 ハリ風呂、脚物窓、トண柄、三足 |
| 55 | 1 T-01,2,T-002 | 2,3,1,2 | 陶器 | 直鉢 | 火鉢 | 那須 | 19C中 | 28.6 | 14.5 | 36.5 | 乳褐色 | 1/2 飲物、比喩文 |
| 56 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 水鉢 | 那須 | 19C中 | 22.1 | 15.7 | 15.3 | 乳褐色 | 3/4 水桶文 |
| 57 | 002 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 手水鉢 | 那須 | 18C後～19C前 | | | 12.9 | 乳褐色 | 1/3 摺肚り、灰褐色地白物掉糞し。郡守印 |
| 58 | 2 T- | 2 | 陶器 | 直鉢 | 火鉢 | 那須 | 18C後～19C前 | | | 18.4 | 乳褐色 | 鏡片、洋文 |
| 59 | 一括 | 1 | 陶器 | 直鉢 | 直鉢 | 那須 | 18C後～19C前 | | | 19.7 | 乳褐色 | 鏡片、鉄刷 |
| 9 | 60 | 1 T-01 | 3 | 土器 | 直鉢 | かわらけ | | 11.8 | 2.2 | 6.6 | 暗褐色 | 未切削、スズ付管 |
| 61 | 1 T-02 | 3 | 土器 | 直鉢 | かわらけ | 17C末 | 30.2 | 1.8 | 5.3 | 灰褐色 | 2/2 直鉢カウラケ、底面内外間に三つといわれる黒斑 | |
| 62 | 1 T-02 | 4 | 土器 | 直鉢 | 燒成窯裏 | 那須 | 18C前 | 7.2 | 2.0 | 7.8 | 暗褐色 | 完形、在文底面 |
| 63 | 002 | 2 | 土器 | 直鉢 | 火鉢 | 那須 | 19C前 | | | 17.8 | 褐色 | 1/2 井戸、内側底面黒色、底蓋文、一部・ガタ |
| 64 | 1 T-01 | 3 | 土器 | 直鉢 | 火鉢 | | | 38.2 | | | 褐色 | 未切削、スズ付管 |
| 65 | 1 T-01 | 3 | 土器 | 直鉢 | 土鍋 | | | 35.6 | | | 褐色 | 鏡片、内底火熱、有孔 |
| 66 | 1 T-01,1 T-02,12,4,2,1 | 2 | 土器 | 直鉢 | 直鉢 | 歌留 | 19C前 | 35.5 | 4.3 | 39.8 | 褐色 | 1/4 台面擦ける |
| 67 | 一括 | 1 | 土器 | 直鉢 | 七輪 | | | 32.7 | | | 褐色 | 鏡片、スズ付管 |
| 68 | 1 T-01 | 3 | 土器 | 直鉢 | 七輪品 | かな | | 9.4 | | | 褐色 | 1/4 内底火熱、有孔 |
| 69 | 2 T- | 2 | 土器 | 直鉢 | 七輪品 | 五井 | 13.2 | 6.1 | 9.8 | 乳褐色 | 2/3 内底火熱、内上部にえぐり | |

表2 出土石製品・瓦・土製品・金属製品・錢貨一覧表

| 番号 | 出土地点 | 遺物番号 | 種別 | 基盤 | 大きさ | 幅 | 厚さ | 重さ | 材質 | 色調 | 測定・備考 |
|----|------|------|------|-------|-------|------|------|-------|------|------|--|
| 70 | 一筋 | 1 | 石製品 | 板石 | 11.4 | 6.0 | 4.0 | 585 | 砂岩 | 青灰色 | 一部欠 内面・一部熱使用 |
| 71 | 1T01 | 3 | 石製品 | 板石 | 11.6 | 5.4 | 4.5 | 236 | 砂岩 | 青灰色 | 一部欠 内面使用 |
| 72 | 一筋 | 1 | 石製品 | 板石 | 14.5 | 4.6 | 5.8 | 310 | 砂岩 | 青灰色 | 破片 |
| 73 | 2T | 2 | 石製品 | 板石 | 10.7 | 2.7 | 2.8 | 94.6 | 砂岩 | 黒褐色 | 一部欠 内面・内側熱使用、二次熟成 |
| 74 | 2T | 2 | 石製品 | 板石 | 7.9 | 3.0 | 2.1 | 68.1 | 砂岩 | 乳白色 | 破片 |
| 75 | 1T01 | 3 | 石製品 | 板石 | 7.6 | 5.2 | 1.1 | 59.8 | 板岩 | 淡灰色 | ほぼ完 内面・一部熱使用 |
| 76 | 1T02 | 3 | 石製品 | 脚質 | 8.0 | 3.2 | 2.5 | 120 | 砂岩 | 灰褐色 | 完形 内面被熱、両口・通孔げ孔・針金固定用 あり |
| 77 | 2T | 2 | 石製品 | 脚質 | 6.2 | 2.3 | 1.5 | 30.8 | 砂岩 | 灰褐色 | 一部欠 底の外側部が磨かれており、破損後の 様子転用も考えられる |
| 78 | 2T | 3 | 石製品 | 鏡 | 7.5 | 2.5 | 0.6 | 18.5 | 縞状片岩 | 暗緑灰色 | ほぼ完 |
| 79 | 2T | 2 | 瓦 | 軽瓦瓦 | | | | | 瓦質 | 黒灰色 | 破片 |
| 80 | 2T | 2 | 瓦 | 軽瓦瓦 | | | | | 土師質 | 褐色 | 破片 |
| 81 | 一筋 | 1 | 石製品 | 大打石 | 2.7 | 2.5 | 0.7 | 7.4 | メノク質 | 暗褐色 | 完形 内側中央部に使用痕 |
| 82 | 002 | 1 | 石製品 | 板石 | 2.6 | 2.0 | 0.5 | 3.8 | 粘板岩 | 黒色 | 完形 |
| 83 | 1T02 | 2 | 土製品 | 今戸人形 | 3.3 | 2.7 | 2.7 | 13.9 | 土師陶 | 暗褐色 | 複合質で分割 |
| 84 | 2T | 3 | 土製品 | 人形 | 4.5 | 4.2 | 2.8 | 24.2 | 土師陶 | 褐色 | 部分 張の付熱、物がかかる |
| 85 | 1T02 | 5 | 金銀製品 | 切羽刃 | 3.2 | 1.0 | 2.2 | 10.8 | 鋼 | 完形 | |
| 86 | 2T | 2 | 金銀製品 | 小刀柄 | 9.3 | 1.3 | 0.6 | 20.7 | 鋼 | 完形 | 文様の痕跡あり |
| 87 | 002 | 1 | 金銀製品 | 火管 | 17.3 | 0.8 | 0.8 | 23.1 | 鋼 | 完形 | 柄の部分に唐唐文痕跡あり |
| 88 | 2T | 2 | 金銀製品 | キセル懸首 | (7.4) | 1.0 | 1.0 | (6.6) | 鋼 | 火管火 | |
| 89 | 002 | 1 | 金銀製品 | キセル懸首 | 4.3 | 1.0 | 1.9 | 6.2 | 鋼 | 完形 | |
| 90 | 一筋 | 2 | 金銀製品 | キセル懸首 | 5.2 | 0.9 | 0.9 | 3.4 | 鋼 | 完形 | |
| 91 | 2T | 2 | 金銀製品 | キセル懸首 | 4.7 | 0.9 | 0.9 | 3.2 | 鋼 | 完形 | |
| 92 | 2T | 2 | 銭貨 | 一分銀 | 2.17 | 1.54 | 0.19 | 3.3 | 銅 | | 完形 「一分銀」、「定年八錢銀」 |
| 93 | 2T | 2 | 銭貨 | 文久永寶 | 2.79 | 2.01 | 0.11 | 2.3 | 銅 | | 完形 「文久」、「十一銭」 |

参考文献

- 1992 新宿区内藤町遺跡調査会 「東京都新宿区内藤町遺跡」－放射5号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書－第II冊<遺物編>
- 1996 印旛都市文化財センター 「千葉県佐倉市佐倉城跡」－市立佐倉中学校給食室建設に伴う埋蔵文化財調査－ 財団法人印旛都市文化財センター発掘調査報告書 第113集
- 1985 熊田宋次郎 「佐倉史談」 国書刊行会
- 1986 国立歴史民俗博物館 「佐倉城の武家屋敷は語る」－歴博研究棟敷地の調査から－
- 1997 千葉県文化財センター 「佐倉市弥勒東台遺跡」－千葉地裁家庭裁判所佐倉支部埋蔵文化財調査報告書－千葉県文化財調査報告書第299集
- 1979 新佐倉真佐子を作る会「新佐倉真佐子」佐倉お茶の間風土記
- 1986 Torrence, R. Production and exchange of stone tools, Cambridge University Press.

表3 出土土器類比率グラフ

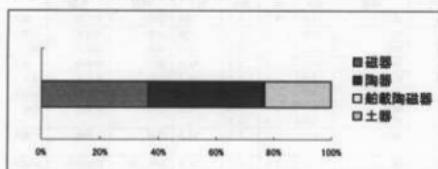
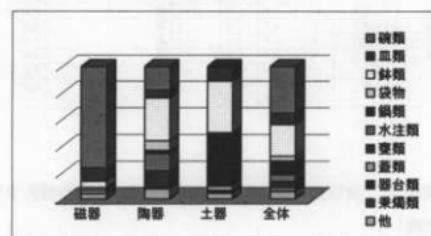


表4 出土土器類 器類別比率グラフ



| | 磁器 | 陶器 | 土器 | 全体 |
|-----|-------|-------|-------|-------|
| 碗類 | 76.2% | 17.8% | — | 35.1% |
| 皿類 | 10.1% | 5.9% | 11.1% | 8.5% |
| 鉢類 | 5.0% | 31.9% | 38.9% | 23.7% |
| 袋物 | 2.0% | 7.3% | 3.6% | — |
| 鍋類 | — | — | 10.4% | 2.5% |
| 水注類 | — | — | 5.2% | 13.0% |
| 甕類 | — | — | 4.7% | 11.8% |
| 甕台類 | — | — | 2.3% | 2.7% |
| 米焗類 | — | — | 0.6% | 0.5% |
| 他 | 4.0% | 7.7% | 4.3% | 5.5% |

写 真 図 版



佐倉城跡航空写真（縮尺約 1/10,000）

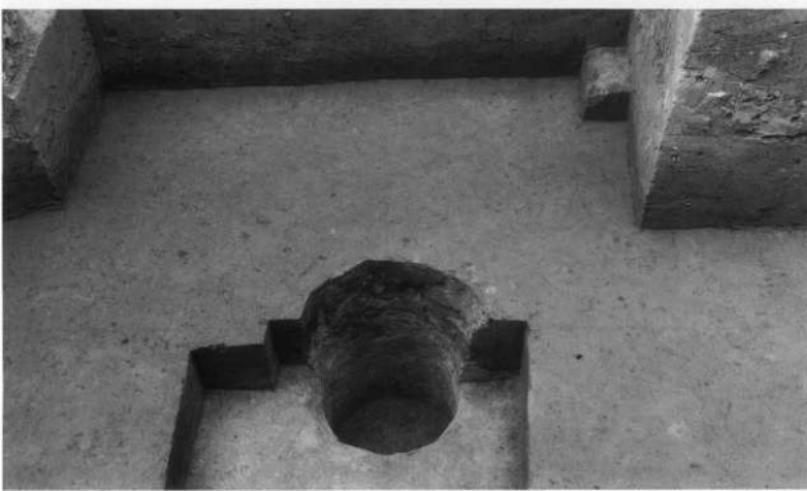
図版 2



調査区遠景



遺物出土状況



002号跡全景



図版 4



出土陶器（2）
出土土器





出土石製品・土製品・瓦・金属製品・錢貨

報告書抄録

| ふりがな | さくらしさくらじょうあと | | | | | | | |
|--------|--|------|---------------------------|--|---------------------------|-----------------------|------------------------|------|
| 書名 | 佐倉市佐倉城跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 県立佐倉東高等学校部室建設に伴う埋蔵文化財調査 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 千葉県文化財センター調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第327集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 宮重行 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 千葉県文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809 Tel043-422-8811 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦1998年3月31日 | | | | | | | |
| 所取遺跡 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 m ² | 調査原因 |
| 佐倉城跡 | 千葉県佐倉市城内町 | 市町村 | 遺跡番号 | 35度 42分 55秒 | 140度 13分 25秒 | 19870404～ 19870421 | 50 | 部室建設 |
| 所取遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 佐倉城跡 | 城跡 | 近世 | 井戸跡 1基 土坑 4基 焼土跡 4基 | 土師器 陶器、磁器 カワラケ、土鍋 土製品、瓦 砥石、鋳型 金属製品、錢貨 | 佐倉藩上級武士の屋敷跡の 一部が検出された。 | | | |

千葉県文化財センター調査報告第327集

佐倉市佐倉城跡

千葉県立佐倉東高等学校部室建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成10年3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター
発 行 千葉県教育庁管理部

千葉市中央区中央4-13-28

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印 刷 株式会社 エリート印刷
千葉県中央区市場町6-8
